

『新生日本のビジョン』 ～新ミレニアムの国家百年の大計～

「はじめに」

「新生日本のビジョン」～新ミレニアムの国家百年の大計～は、主として、政治、経済、文化の三本柱を中心とした思想評論演説集である。

ミレニアムという言葉のある通り、本編は、二千年前後を中心にして、この十年に渡って綴られたものである。故に、特に、三十三歳頃の私の言霊と思想がよく顕れていると思う。

二十一歳には二十一歳にしか綴れない言霊の響きがあるように、三十三歳には三十三歳にしか綴れない言霊の響きがあるものである。

三十三歳といえば、坂本龍馬が最も円熟した最晩年の年代であり、また、かのイエス・キリストが神の国を示した達成期であるといえる。その意味で、この「新生日本のビジョン」は、永遠の青年の魂と志と理念を宿しているものである。

私は、二十六歳の時に、「精神的ジャパニーズドリーム」と「夢を実現する条件」という思想書を著述して、JDR義塾、JDR総合研究所というものを設立して、主として哲理をもって人々を感化してきたものであるが、三十三歳の時というのは、明治維新の頃ならば、多くの志士達が天命を全うした頃である。その覚悟をもって演説していたことは、言葉の端々にうかがえるであろう。

それ以降、哲学評論として、「叡智の結晶」や、「理念哲学講義録」や、「哲学随想」などを綴ってきた。しかし、本編は私の生の演説集であり、この日本、及び世界の実相、アイデア、理念を照らすであろう言霊の息吹きに満ちている。

熱意と真心をもって愛読していただければ幸いである。

JDR総合研究所・代表 天川貴之